

# 地域住民で子育て支援、ファミリーサポートセンターについて

## 町長 課題を整理して積極的に対応したい



坂井 美穂 議員

管内では小樽市が実施。実施主体は市町村であり、市町村が認めた者へ委託等を行うことができる。

**坂井** 子育て中の家庭を地域全体で応援する環境づくりを

目指し、町民同士が有償ボランティアで支援するファミリーサポートセンターの早期開設を検討していくことができないか。

**町長** ファミリーサポートセンターは、急な残業や保護者の病気の際など、既存の保育体制では応じ切れない変動的・変則的な保育ニーズに対応するため、

育児の援助を行いたい者と援助を受けたい者が会員となって、地域における育児に関する有料の相互援助活動を行うもの。

管内有小樽市が実施。実施主体は市町村であり、市町村が認めた者へ委託等を行うことができる。

本町においてもニーズがあることは認識しており、先進地の自治体に研修、情報の収集、研究を重ね、ファミリーサポートセンター事業を構築できるように検討していく。

**坂井** 俱知安町子どもプラザのなかでは、平成31年度まで事業計画期間としているが、今後、具体的にどのように取り組んでいくのか。

産後ケアは非常に重要。国では産婦健診費用の助成事業が始まっているが、導入に対しての考えを伺う。

**町長** 2017年度に母子保健衛生費による産婦健診費用の国庫補助が導入されている。現在実施している。産前産後の支援を継続していく中で課題を整理し、本町にとっての産後支援のあり方を検討しながら進めていきたい。

いろいろな課題もあるので、それらを整理し、取り組みができるように積極的に対応していく。

産前産後サポート事業は、保健師等の専門職だけでなく、研修を受けた子育て経験者、シニア世代などが相談支援などを通して

て、母親の不安や孤立感の解消を図るものだがこの事業の導入に対しての見通しを伺う。

**町長** 妊娠期から産前産後、子育て期間についての、切れない取り組みは非常に重要。いろいろな制度があるが、それらを含めて、前向きに取り組んでいきたい。

新庁舎のユニバーサルデザインについて

**坂井** 新庁舎建設の基本設計の一つに、ユニバーサルデザインを取り入れた、すべての人にとって利用しやすい庁舎とあるが、現在の基本設計の中でどのように取り入れられているか伺う。

本格的な少子高齢社会の時代を迎え、全ての人が自立した個人としての参画できる社会の実現が求められる。社会資本を整備する上でも、誰もが同じように利用できる施設の整備が重要な課題。

庁舎本体においては、わかりやすい空間構成。多様な利用者を考慮して、わかりやすい案内サインを導入。子ども連れの来庁者のために、授乳スペースやベビーベッド、キッズスペースを設置。

廊下は、車椅子がすれ違える広い廊下とし、階段は段差が低く幅広なもの。アプローチに関しては、段差や急なスロープがなく、歩行者の安全性に配慮するため、歩行者と自動車の経路を分離した敷地内通路。表示板やカラー舗装などによる明確化。視覚障害に考慮したカラーデザインなど細かい点についてさらに検討を進めていく。

高齢者や障がい者が円滑に移動できるバリアフリー法が12年ぶりに改正された。ここでの課題は施設間の移動がバリアフリーであるか、移動の連続性が確保されているかである。また、バリアフリー策定の評価等に障がい者等の参画、視点の反映が必要とされている。これまでの基本設計で当事者の意見を聞く機会があったのか。あらゆる人の目線に立った検討でユニバーサルデザインの水準を高めていくことができないか伺う。

**坂井** コンサルタン ト会社任せではなく、当事者目線というのを重視して対応していただきたい。

## 一般質問 坂井美穂

**町長** 本格的な少子高齢社会の時代を迎え、全ての人が自立した個人としての参画できる社会の実現が求められる。社会資本を整備する上でも、誰もが同じように利用できる施設の整備が重要な課題。

**坂井** 高齢者や障がい者が円滑に移動できるバリアフリー法が12年ぶりに改正された。ここでの課題は施設間の移動がバリアフリーであるか、移動の連続性が確保されているかである。また、バリアフリー策定の評価等に障がい者等の参画、視点の反映が必要とされている。これまでの基本設計で当事者の意見を聞く機会があったのか。あらゆる人の目線に立った検討でユニバーサルデザインの水準を高めていくことができないか伺う。

庁舎本体においては、わかりやすい空間構成。多様な利用者を考慮して、わかりやすい案内サインを導入。子ども連れの来庁者のために、授乳スペースやベビーベッド、キッズスペースを設置。

廊下は、車椅子がすれ違える広い廊下とし、階段は段差が低く幅広なもの。アプローチに関しては、段差や急なスロープがなく、歩行者の安全性に配慮するため、歩行者と自動車の経路を分離した敷地内通路。表示板やカラー舗装などによる明確化。視覚障害に考慮したカラーデザインなど細かい点についてさらに検討を進めていく。

廊下は、車椅子がすれ違える広い廊下とし、階段は段差が低く幅広なもの。アプローチに関しては、段差や急なスロープがなく、歩行者の安全性に配慮するため、歩行者と自動車の経路を分離した敷地内通路。表示板やカラー舗装などによる明確化。視覚障害に考慮したカラーデザインなど細かい点についてさらに検討を進めていく。

廊下は、車椅子がすれ違える広い廊下とし、階段は段差が低く幅広なもの。アプローチに関しては、段差や急なスロープがなく、歩行者の安全性に配慮するため、歩行者と自動車の経路を分離した敷地内通路。表示板やカラー舗装などによる明確化。視覚障害に考慮したカラーデザインなど細かい点についてさらに検討を進めていく。

廊下は、車椅子がすれ違える広い廊下とし、階段は段差が低く幅広なもの。アプローチに関しては、段差や急なスロープがなく、歩行者の安全性に配慮するため、歩行者と自動車の経路を分離した敷地内通路。表示板やカラー舗装などによる明確化。視覚障害に考慮したカラーデザインなど細かい点についてさらに検討を進めていく。

廊下は、車椅子がすれ違える広い廊下とし、階段は段差が低く幅広なもの。アプローチに関しては、段差や急なスロープがなく、歩行者の安全性に配慮するため、歩行者と自動車の経路を分離した敷地内通路。表示板やカラー舗装などによる明確化。視覚障害に考慮したカラーデザインなど細かい点についてさらに検討を進めていく。

廊下は、車椅子がすれ違える広い廊下とし、階段は段差が低く幅広なもの。アプローチに関しては、段差や急なスロープがなく、歩行者の安全性に配慮するため、歩行者と自動車の経路を分離した敷地内通路。表示板やカラー舗装などによる明確化。視覚障害に考慮したカラーデザインなど細かい点についてさらに検討を進めていく。

廊下は、車椅子がすれ違える広い廊下とし、階段は段差が低く幅広なもの。アプローチに関しては、段差や急なスロープがなく、歩行者の安全性に配慮するため、歩行者と自動車の経路を分離した敷地内通路。表示板やカラー舗装などによる明確化。視覚障害に考慮したカラーデザインなど細かい点についてさらに検討を進めていく。

廊下は、車椅子がすれ違える広い廊下とし、階段は段差が低く幅広なもの。アプローチに関しては、段差や急なスロープがなく、歩行者の安全性に配慮するため、歩行者と自動車の経路を分離した敷地内通路。表示板やカラー舗装などによる明確化。視覚障害に考慮したカラーデザインなど細かい点についてさらに検討を進めていく。

廊下は、車椅子がすれ違える広い廊下とし、階段は段差が低く幅広なもの。アプローチに関しては、段差や急なスロープがなく、歩行者の安全性に配慮するため、歩行者と自動車の経路を分離した敷地内通路。表示板やカラー舗装などによる明確化。視覚障害に考慮したカラーデザインなど細かい点についてさらに検討を進めていく。

廊下は、車椅子がすれ違える広い廊下とし、階段は段差が低く幅広なもの。アプローチに関しては、段差や急なスロープがなく、歩行者の安全性に配慮するため、歩行者と自動車の経路を分離した敷地内通路。表示板やカラー舗装などによる明確化。視覚障害に考慮したカラーデザインなど細かい点についてさらに検討を進めていく。

廊下は、車椅子がすれ違える広い廊下とし、階段は段差が低く幅広なもの。アプローチに関しては、段差や急なスロープがなく、歩行者の安全性に配慮するため、歩行者と自動車の経路を分離した敷地内通路。表示板やカラー舗装などによる明確化。視覚障害に考慮したカラーデザインなど細かい点についてさらに検討を進めていく。